

研究開発課題

幼保連携型認定こども園における乳幼児期の学びや育ちの連続性を「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」を踏まえた視点で捉えた0歳児から5歳児の教育課程の編成 及び指導計画の作成
教育及び保育の質の向上
教職員の資質向上に関する研究開発

日時：令和6年1月17日

学校法人湖東学園

幼保連携型認定こども園にしばる 外3園

学校法人湖東学園グループの 幼保連携型認定こども園

こども園にしばる

こども園こうとう

こども園とうぶ

こども園こうだいに

教職員数	約 80人
園児数	約520人

研究に取り組む前の本園の課題

【保育】

- ・ 教育課程・指導計画が、前年度と同じ
- ・ 教育課程や指導計画のねらい、内容を意識していない
- ・ 活動主体の保育、保育者中心の保育
- ・ 幼児の主体性を生かした保育の意味が浸透していない
- ・ 幼児の活動の制限

雨の日は、外で遊ばない
水たまりには、入らない

主活動は、保育
者が設定する

ねらい・内容と保育
がつながっていない

子どもが楽しく遊ん
でいたら、満足

【保育者の資質や勤務状況】

- ・ 時間シフトでの勤務するため、研修時間の確保が難しい
- ・ 保育者の退職、採用が多く、経年の積み重ねが難しい
- ・ 保育者の保育力に個人差が大きい 等

研究の目的と内容

Cot^ogakuen

- 1 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」を踏まえた視点で捉えた0歳児から5歳児の教育課程の編成
- 2 連続性のある指導計画の作成（年間計画⇔月案⇔週案⇔日案）
- 3 教育及び保育の質の向上
 - (1) 可視化した保育記録と、それを活用した保育の振り返りと改善「エピソード記録」「マンスリー・エピソード」
 - (2) 幼児の主体性を大切にした保育実践
 - (3) 小学校との連携・接続
 - (4) 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」望ましい育ちの確認表
- 4 教職員の資質向上に向けた取組

研究概要図

小学校以降の教育へ

湖東学園幼保連携型認定こども園 教育目標 (目指す子ども像)

- 1 生き生きと活動し、心も体もたくましい子ども
- 2 明るく素直で情操豊かな子ども
- 3 よく見たり考えたりして、意欲的に創造する子ども
- 4 思いやりをもち、力を合わせて取り組む子ども
- 5 環境に主体的にかかわり、豊かに表現できる子ども

<幼児期の終わりまでに育ってほしい姿>

- 健康な心と体 自立心 協同性
 道徳性・規範意識の芽生え 社会生活との関わり
 思考力の芽生え 自然とのかかわり・生命尊重
 数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚
 言葉による伝え合い 豊かな感性と表現

豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かったり、できるようにしたりする。
「知識及び技能の基礎」

気付いたことや出来るようになったことなどを使い、試したり、工夫したり、表現したりする。
「思考力、判断力、表現力の基礎」

心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする
「学びに向かう力、人間性等」

※学びや育ちを読み取る視点

- 学校安全計画
- 学校保健計画
- 食育の計画
- 子育て支援の計画等
- 小学校との連携
- 地域・家庭との連携

保育のための計画

保育の計画

教育時間の教育活動のための計画

教育課程の編成

指導計画の作成

幼児の実態

5領域のねらい・内容

保育者の願い

【5領域】
健康 人間関係 環境 言葉 表現

【5領域】
健康 人間関係 環境 言葉 表現

【三つの視点】
健やかに伸び伸びと育つ
身近な人と気づきあう
身近なものに関わり感性が育つ

育ちと学びの連続性

計画→実践→評価→改善

0 歳児
1 歳児
2 歳児
3 歳児
4 歳児
5 歳児

養護の行き届いた環境 (生命の維持、情緒の安定)

全体的な計画

保育の可視化 (エピソード記録・マンスリー・エピソード)

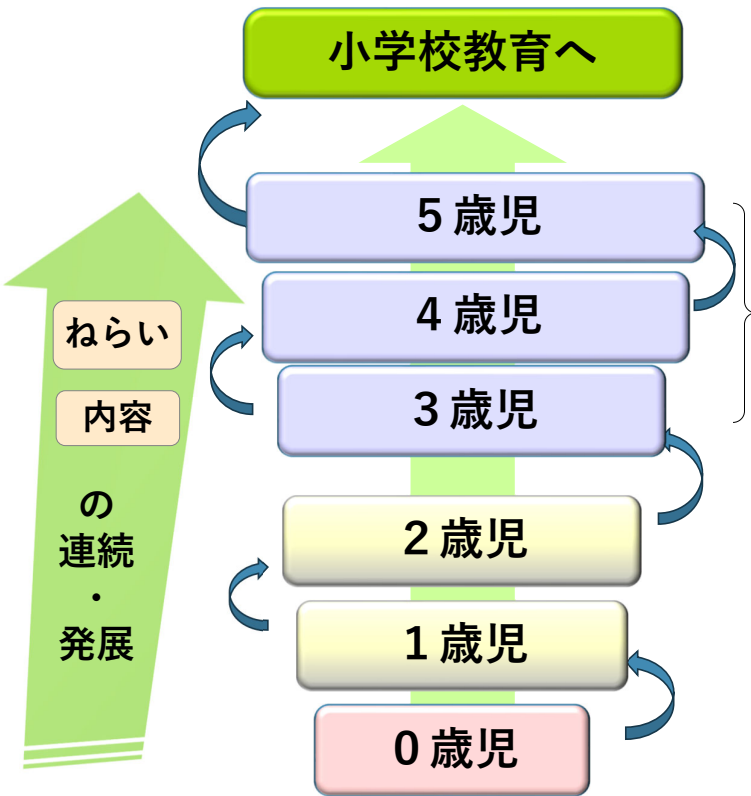
環境構成・援助の工夫

全体的な計画における教育課程の位置づけ

教育・保育理念	基本方針	各年齢の目標	育みたい資質・能力	教育課程の編成	指導計画の作成	幼児の実態	5領域のねらい・内容	保育者の願い
<p>1 未来を志向し、家庭ではできない新たな世界との出会いを大切にすること</p> <p>2 子ども一人ひとりを理解し、よきを伸ばす教育・保育を行い、生きる力の基礎を培うこと</p> <p>3 遊びの中で育む期間に大切にすることを念頭に、新しい時代を生かす力を養うこと</p> <p>4 基本的な生活習慣・態度を育て、豊かな心や思考力・想像力を養い、意欲や思いやりを育むこと</p> <p>5 認定こども園と連携し、協働を推進し、それぞれの教育力を活かして一人ひとりの育ちを育てること</p>	<p>0歳児</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 特定の個人との定着を図りながら、情緒的な絆を築く。 ② 家庭との連携のもと、心地よく生活する。 <p>1歳児</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 特定の個人との定着を図りながら、情緒的な絆を築く。 ② 家庭との連携のもと、心地よく生活する。 <p>2歳児</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 特定の個人との定着を図りながら、情緒的な絆を築く。 ② 家庭との連携のもと、心地よく生活する。 <p>3歳児</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 特定の個人との定着を図りながら、情緒的な絆を築く。 ② 家庭との連携のもと、心地よく生活する。 <p>4歳児</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 特定の個人との定着を図りながら、情緒的な絆を築く。 ② 家庭との連携のもと、心地よく生活する。 <p>5歳児</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 特定の個人との定着を図りながら、情緒的な絆を築く。 ② 家庭との連携のもと、心地よく生活する。 	<p>0歳児</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 特定の個人との定着を図りながら、情緒的な絆を築く。 ② 家庭との連携のもと、心地よく生活する。 <p>1歳児</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 特定の個人との定着を図りながら、情緒的な絆を築く。 ② 家庭との連携のもと、心地よく生活する。 <p>2歳児</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 特定の個人との定着を図りながら、情緒的な絆を築く。 ② 家庭との連携のもと、心地よく生活する。 <p>3歳児</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 特定の個人との定着を図りながら、情緒的な絆を築く。 ② 家庭との連携のもと、心地よく生活する。 <p>4歳児</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 特定の個人との定着を図りながら、情緒的な絆を築く。 ② 家庭との連携のもと、心地よく生活する。 <p>5歳児</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 特定の個人との定着を図りながら、情緒的な絆を築く。 ② 家庭との連携のもと、心地よく生活する。 	<p>健康</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 一人ひとりの生活リズムを整え、生活の安定を促す。 ② 一人ひとりの生活リズムを整え、生活の安定を促す。 <p>人間関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 一人ひとりの生活リズムを整え、生活の安定を促す。 ② 一人ひとりの生活リズムを整え、生活の安定を促す。 <p>環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 一人ひとりの生活リズムを整え、生活の安定を促す。 ② 一人ひとりの生活リズムを整え、生活の安定を促す。 <p>言葉</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 一人ひとりの生活リズムを整え、生活の安定を促す。 ② 一人ひとりの生活リズムを整え、生活の安定を促す。 <p>表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 一人ひとりの生活リズムを整え、生活の安定を促す。 ② 一人ひとりの生活リズムを整え、生活の安定を促す。 	<p>健康</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 一人ひとりの生活リズムを整え、生活の安定を促す。 ② 一人ひとりの生活リズムを整え、生活の安定を促す。 <p>人間関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 一人ひとりの生活リズムを整え、生活の安定を促す。 ② 一人ひとりの生活リズムを整え、生活の安定を促す。 <p>環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 一人ひとりの生活リズムを整え、生活の安定を促す。 ② 一人ひとりの生活リズムを整え、生活の安定を促す。 <p>言葉</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 一人ひとりの生活リズムを整え、生活の安定を促す。 ② 一人ひとりの生活リズムを整え、生活の安定を促す。 <p>表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 一人ひとりの生活リズムを整え、生活の安定を促す。 ② 一人ひとりの生活リズムを整え、生活の安定を促す。 	<p>健康</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 一人ひとりの生活リズムを整え、生活の安定を促す。 ② 一人ひとりの生活リズムを整え、生活の安定を促す。 <p>人間関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 一人ひとりの生活リズムを整え、生活の安定を促す。 ② 一人ひとりの生活リズムを整え、生活の安定を促す。 <p>環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 一人ひとりの生活リズムを整え、生活の安定を促す。 ② 一人ひとりの生活リズムを整え、生活の安定を促す。 <p>言葉</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 一人ひとりの生活リズムを整え、生活の安定を促す。 ② 一人ひとりの生活リズムを整え、生活の安定を促す。 <p>表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 一人ひとりの生活リズムを整え、生活の安定を促す。 ② 一人ひとりの生活リズムを整え、生活の安定を促す。 	<p>健康</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 一人ひとりの生活リズムを整え、生活の安定を促す。 ② 一人ひとりの生活リズムを整え、生活の安定を促す。 <p>人間関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 一人ひとりの生活リズムを整え、生活の安定を促す。 ② 一人ひとりの生活リズムを整え、生活の安定を促す。 <p>環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 一人ひとりの生活リズムを整え、生活の安定を促す。 ② 一人ひとりの生活リズムを整え、生活の安定を促す。 <p>言葉</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 一人ひとりの生活リズムを整え、生活の安定を促す。 ② 一人ひとりの生活リズムを整え、生活の安定を促す。 <p>表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 一人ひとりの生活リズムを整え、生活の安定を促す。 ② 一人ひとりの生活リズムを整え、生活の安定を促す。 	<p>健康</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 一人ひとりの生活リズムを整え、生活の安定を促す。 ② 一人ひとりの生活リズムを整え、生活の安定を促す。 <p>人間関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 一人ひとりの生活リズムを整え、生活の安定を促す。 ② 一人ひとりの生活リズムを整え、生活の安定を促す。 <p>環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 一人ひとりの生活リズムを整え、生活の安定を促す。 ② 一人ひとりの生活リズムを整え、生活の安定を促す。 <p>言葉</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 一人ひとりの生活リズムを整え、生活の安定を促す。 ② 一人ひとりの生活リズムを整え、生活の安定を促す。 <p>表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 一人ひとりの生活リズムを整え、生活の安定を促す。 ② 一人ひとりの生活リズムを整え、生活の安定を促す。 	

教育目標 (目指す子ども像)

- 1 生き生きと活動し、心も体もたくましい子ども
- 2 明るく素直で情操豊かな子ども
- 3 よく見たり考えたりして、意欲的に創造することも
- 4 思いやりをもち、力を合わせて取り組む子ども
- 5 環境に主体的に関わり、豊かに表現できる子ども



1 教育課程編成

5 領域で編成

健康・人間関係
環境・言葉・表現

本園独自のねらいと内容の取り入れ

3 歳児～5 歳児

期別で編成

I 期(4・5月) II 期(6～9月)
III 期(10～12月) IV 期(1～3月)

2 歳児

期別で編成し、月齢を組み合わせる

1 歳児

月齢で編成

3ヶ月毎に区分

三つの視点で編成

- ・健やかに伸び伸びと育つ
- ・身近な人と気持ちが通じ合う
- ・身近なものに関わり感性が育つ

0 歳児

月齢で編成

教育課程の編成 (0 歳児・1 歳児)

月 齢 (3 ヶ月 毎) で編成

0 歳児

0 歳児 教育課程「教育に関する事項」

ねらい	【ア 健やかに伸び伸びと育つ】		
	① 身体感覚が育ち、快適な環境に心地よさを感じる。		
	② 伸び伸びと体を動かし、はう、歩くなどの運動をしようとする。		
	③ 食事、睡眠等の生活のリズムの感覚が芽生える。		
ねらい	【イ 身近な人と気持ちが通じ合う】		
	① 安心できる関係の下で、身近な人と共に過ごす喜びを感じる。		
	② 体の動きや表情、発声等により、保育者等と気持ちを通わせようとする。		
	③ 身近な人と親しみ、関わりを深め、愛情や信頼感が芽生える。		
ねらい	【ウ 身近なものに関わり感性が育つ】		
	① 身の回りのものに親しみ、様々なものに興味や関心をもつ。		
	② 見る、触れる、探検するなど、身近な環境に自分から関わろうとする。		
	③ 身体の手触りや質感が豊かになり、表情や手足、体の動き等で表現する。		
指導内容	3 ヵ月～6 ヵ月未 満	6 ヵ月～9 ヵ月未 満	9 ヵ月～1 歳未 満
	【健やかに伸び伸びと育つ】	【健やかに伸び伸びと育つ】	【健やかに伸び伸びと育つ】
	・抱かれて言葉をかけられていながら、気持ちよくミルクを飲む	・離乳食を喜んで食べる	・つかまり立ちし、高いところのものを取ろうとする
	・特定の保育者に抱かれたり、抱きかかえられたりして気持ちが安定し、喜びを味わう	・支えなしで立ち、はう、歩くなどの運動をしようとする	・はう、はうをいせし、はうで布などを取り越えようとする

1 歳児

1 歳児 教育課程「教育に関する事項」

ねらい	【健康】			【言葉】			
	① 保育者に信頼感を持ち、安心して生活する			① 先生や友達との言葉のやりとりを楽しむ			
	② 歩く、走る、跳ぶなどの全身を使う動きを楽しむ			② したいこと、してほしいことを言葉で伝えようとする			
	③ 食事や衣服の着脱を自分でしようという気持ちを持つ			③ 絵本に興味を持ち、簡単な言葉を繰り返したり、模倣したりすることを楽しむ			
ねらい	【人間関係】			【表現】			
	① 保育者に見守られて、園生活や遊びを楽しむ			① 様々な音、形、色、手触り、動きの感覚を味わう			
	② 保育者や友達に関心を持ち、関わりを持とうとする			② 感じたことや考えたことなどを、言葉や体の動きで表現しようとする			
	③ 園生活にルールがあることに気付く			③ 歌を聴いたり、リズムに合わせて動くことを楽しむ			
ねらい	【環境】			【環境】			
	① 身近なものや自然物に触れることを喜び、関心を持つ			① 身近なものや自然物に触れることを喜び、関心を持つ			
	② 見立て遊びや模倣遊びを楽しむ			② 見立て遊びや模倣遊びを楽しむ			
	③ 身近なものに触れて感覚を楽しむ			③ 身近なものに触れて感覚を楽しむ			
指導内容	1 歳0ヶ月以上1 歳3ヶ月未 満	1 歳3ヶ月以上1 歳6ヶ月未 満	1 歳6ヶ月以上1 歳9ヶ月未 満	1 歳9ヶ月以上2 歳未 満	1 歳0ヶ月以上1 歳3ヶ月未 満	1 歳3ヶ月以上1 歳6ヶ月未 満	
	【健康】	【健康】	【健康】	【健康】	【健康】	【健康】	
	・活動しやすい安全な場所で、全身運動や探索をする楽しさを感じる	・走ったり階段を登ったり上ることを楽しむ	・段差が上がったり、から飛び降りたりすることを楽しむ	・両足でふんばりふんばりできる	・ボールを投げられるようになる	・鉄棒にぶら下がることを楽しむ	・両足でふんばりふんばりできる
	・バランスを取りながら歩くようになる	・困ったとき助けを求めようとする	・ボールを受け取り投げたりすることを楽しむ	・追いつけっこをする	・口元を自分で開くことができる	・食事を着替えるなどの活動で、自分でして遊ぶ	・食事に興味を持ち、スプーンを使って自分で食べようとする

三つの視点で編成

- ・健やかに伸び伸びと育つ
- ・身近な人と気持ちが通じ合う
- ・身近なものに関わり感性が育つ

5 領域で編成

健康 人間関係 環境 言葉 表現

教育課程の編成（2歳児）

5領域で編成

期別（Ⅰ期～Ⅳ期）で編成 — 発達を考慮し、月齢を組み合わせる —

※ 4月当初・・2歳1ヶ月～2歳11ヶ月の子どもが在籍
 発達に大きな開きが見られる2歳児の育ちや学びを保障する

- ・Ⅰ期、Ⅱ期は、月齢で2つに分けて、それぞれにねらい・内容を設定する。
- ・発達の差が縮まるⅢ期からは、共通のねらい・内容を設定する。

		Ⅰ期 (4月～5月)	Ⅱ期 (6月～9月)	Ⅲ期 (10月～12月)	Ⅳ期 (1月～3月)
4月～9月 生まれ	ねらい ・内容	分けて設定	分けて設定	同じねらい ・内容を設定	同じねらい ・内容を設定
10月～3月 生まれ	ねらい ・内容	分けて設定	分けて設定		

期別の教育課程（2歳児）

ねらい

期別のねらい（4月～9月生まれ）

	Ⅰ期(4・5月)	Ⅱ期(6・7・8・9月)	Ⅲ期(10・11・12月)	Ⅳ期(1・2・3月)
〈健康〉	1 保育者に受容され、安定感をもって生活する。 2 伸び伸びと体を動かし、走る、跳ぶ、登る、押す、投げるなど全身を使う遊びを楽しむ。 3 園生活のリズムができてくる。 4 健康な生活に必要な習慣を自分でやろうとする。	1 全身を使う遊びに挑戦しようとする。 2 自分で排泄をしようとする。 3 園生活の仕方が分かり、できることを自分でしようとする。	1 いろいろな運動遊びに取り組み、できるようになるうとする。 2 友達と一緒に運動遊びを楽しむ。 3 健康に関する習慣が身に付き、自分からやろうとする。 4 生活や遊びの場を自分で整えようとする。	1 取り組んだ運動遊びができるようになったことを喜ぶ。 2 簡単なルールのある運動遊びに取り組む。 3 片付けの大切さが分かる。 4 服装に気を付けながら、寒くても戸外で遊ぶうとする。
〈人間関係〉	1 自分のできることは自分でしようとする 2 保育者の仲立ちにより、他の子どもとの関わり方を少しずつ身に付ける。 3 自分の思いを友達に伝えようとする。	1 友達と一緒に遊ぶ楽しさが分かり、関わろうとする。 2 役になって遊ぶと楽しいことが分かる。 3 思ったこと、見つけたこと、気付いたことを、保育者や友達に伝えようとする。 4 自分の役割を果たそうとする。	1 友達に自分とは違う思いがあることに気がつき、友達の思いを受け止めようとする。 2 順番があることが分かる。 3 してはいけないことがあることに気付く。 4 園生活や遊びには決まりがあることに気付く。	1 役割を分担し、交代して遊ぶと楽しいことが分かる。 2 簡単なルールを守って遊ぼうとする。 3 時間を意識して行動しようとする。
〈環境〉	1 身近な自然に関心をもち、遊びに取り入れようとする。 2 場所や時間に関心をもち、	1 遊びに必要なものを取り入れて、遊びを楽しくしようとする。 2 身近な生き物や草花に興味をもち、関わる	1 生き物の特徴や面白さに気付く。	〈環境〉 1 身の回りのものの性質や仕組みに興味をもつ。 2 冬から春への自然の様子に興味をもつ。

4月～9月
生まれ

期別のねらい（10月～3月生まれ）

	Ⅰ期(4・5月)	Ⅱ期(6・7・8・9月)	Ⅲ期(10・11・12月) Ⅳ期(1・2・3月)
〈健康〉	1 保育者に受容され、安定感をもって生活をする。 2 伸び伸びと体を動かし、走る、跳ぶ、登る、押す、投げるなど全身を使う遊びを楽しむ。 3 園生活のリズムができてくる。 4 健康な生活に必要な習慣が少しずつ身に付ける。	1 いろいろな体の動きを楽しむ。 2 健康な生活に必要な行動を保育者の援助でしようとする。 3 きれいであることの心地よさを感じ、できることしようとする。	4月生まれ～9月生まれと同じ
〈人間関係〉	1 他の子どもの様子に関心をもち、 2 他の子どもに関わろうとする。 3 自分の思いを友達に伝えようとする。	1 友達と一緒に遊ぶと楽しいと感じる。 2 役になって遊ぶことを楽しむ。 3 思ったこと、見つけたことを保育者に伝えようとする。 3 保育者の援助で、自分の役割を果たそうとする。	
〈環境〉	1 玩具や遊具を使った遊びを楽しむ。 2 身近な植物や生き物に関心をもち、 3 身に周りのものや出来事に関心をもち、	1 身近な素材を使って遊びを楽しむ。 2 身近な生き物や草花に興味をもち、関わろうとする。 3 季節の行事に参加しようとする。	
〈言葉〉	1 経験したことや思ったことを言葉や動作で伝えようとする。	〈言葉〉	

10月～3月
生まれ

教育課程の編成（3歳児～5歳児）

5領域で編成

園独自に設定した「内容」

- 《健康》（5歳児）失敗したり嫌なことがあったりしても、くじけずに行動する
- 《人間関係》（3歳児）なにかしてもらったらお礼を言う
- （5歳児）自分たちのためにしてくれていることに感謝の気持ちをもち、自分も何かしようという気持ちをもつ

「10の姿」を意識して作成

		3歳児	4歳児	5歳児
学年の目標	健康	・自分で行うことに意欲や喜びを持ちながら、生活に必要な習慣を身に付ける。 ・いろいろな活動や遊びに積極的に関わり、楽しさを味わい、人とのつながりを感じる。 ・集団の中で自己主張したり、相手の立場を考えたしなから行動出来るようになる。	・自分で出来ることに意欲や喜びを持ちながら、生活に必要な習慣を身に付ける。 ・いろいろな活動や遊びに積極的に関わり、楽しさを味わい、人とのつながりを感じる。 ・集団の中で自己主張したり、相手の立場を考えたしなから行動出来るようになる。	・就学に向けて、基本的な生活や態度を身に付ける。 ・友達と協力し、目的を達成していく喜びを味わう。 ・探求心をもち、試したり工夫したり表現したりしながら遊ぶ。活動や心情を高める。
	人間関係	・自分で行うことに意欲や喜びを持ちながら、生活に必要な習慣を身に付ける。 ・いろいろな活動や遊びに積極的に関わり、楽しさを味わい、人とのつながりを感じる。 ・集団の中で自己主張したり、相手の立場を考えたしなから行動出来るようになる。	・自分で出来ることに意欲や喜びを持ちながら、生活に必要な習慣を身に付ける。 ・いろいろな活動や遊びに積極的に関わり、楽しさを味わい、人とのつながりを感じる。 ・集団の中で自己主張したり、相手の立場を考えたしなから行動出来るようになる。	・就学に向けて、基本的な生活や態度を身に付ける。 ・友達と協力し、目的を達成していく喜びを味わう。 ・探求心をもち、試したり工夫したり表現したりしながら遊ぶ。活動や心情を高める。
ねらい	健康	① 安定感をもって、伸び伸びと活動に取り組む。 ② 様々な活動で体を十分に動かすことを楽しむ。 ③ 園における生活の仕方や、健康で安全な生活に必要な清潔、衣服の着脱、食事、排泄、病気の予防、安全行動などの習慣、態度を知り、身に付けようとする。	① 伸び伸びと活動に取り組む、充実感を味わう。 ② 様々な活動で体を動かすことを楽しみ、少し難しい事にも挑戦する。 ③ 健康、安全な生活に必要な清潔、衣服の着脱、食事、病気の予防、安全行動などの習慣や態度を身に付け、健康な生活の場を整えながら、見直しをもって行動する。	① 意欲的に活動に取り組む、充実感を味わう。 ② 様々な活動で体を動かすことを楽しみ、難しい事にも進んで挑戦する。 ③ 健康、安全な生活に必要な清潔、衣服の着脱、食事、病気の予防、安全行動などの習慣や態度を身に付け、自分たちで健康な生活の場を整えながら、見直しをもって行動する。
	人間関係	① 園生活に慣れ、安心して友達と遊ぶ ② 自分なりのペースで落ち着いて行動する ③ 思い通りにいかなくてももう少しやってみようとする ④ 先生や友達と体を動かして遊ぶ楽しさを感じる ⑤ みんなで食べることを楽しみ、食事に集中する ⑥ 遊具から降ろすまでの園生活のリズムに慣れる ⑦ 衣服の着脱、排泄、手洗いや歯磨きなど自分で行うことができる ⑧ 園の生活の場がわかり、それぞれに合った行動ができる ⑨ 手洗いやうがい、衣服の洗濯、汗を拭くなどの習慣を身に付ける ⑩ 危険な場所や行動が分かる	① 自分なりのペースで落ち着いて行動する ② 目標をもって遊びに取り組む、最後までやろうとする ③ しなやかな動きが分かる、やろうとする ④ 様々な活動に積極的に挑戦する ⑤ 食べることに大切さを感じる ⑥ 活動と休息、緊張と弛緩、静と動などのリズムを身に付ける ⑦ 衣服の着脱、排泄、手洗いや歯磨きなど自分で行うことができるようになる ⑧ かたづけや片付けなど、生活の場を整えようとする ⑨ 健康習慣の大切さを知り、自分からしようとする ⑩ 安全な生活に必要な決まりや約束がわかり、守ろうとする	① 自分なりの目標をもって活動し、やりとげようとする ② 伸び伸びと行動しながら、小学校に入学する期待をもつ ③ できなかったことや新しい運動遊びに意欲的に挑戦する ④ 失敗したり嫌なことがあったりしても、くじけずに行動する ⑤ 遊び方やルールを考えた遊びに取り組む ⑥ 食料や作ってくれた人に感謝の気持ちをもち、がんばって食べようとする ⑦ 運動と休息、静と動など、自分で生活のバランスを取ろうとする ⑧ 生活の前後や時間を意識して生活の場を整えようとする ⑨ 体の健康や病気や興味をもち、予防の大切さを知る ⑩ 安全な行動、危険な行動を自分で判断できる
内容	健康	① 自分でできることは、自分で行うとする。 ② 自分の思いを伝え、相手の思いを感じて先生や友達と一緒に活動する楽しさを味わう。 ③ 相手に対する思いやりや感謝の気持ちをもつ。 ④ 決まりの大切さや、してよいこととしてはいけないことがあることが分かる。	① 自分でできることは、自分で行うとする。 ② 身近な人と親しみ、力を合せてたり、思いを伝え合ったりして一緒に活動する楽しさを味わう。 ③ 友達の良いことを感じ取り、相手に対する思いやりや感謝の気持ちをもつ。 ④ 決まりの大切さやしてよいこと、してはいけないことがあることが分かる。	① 自分で考えて自分の力で行動し、充実感を味わう。 ② 共通の目的を見だし、工夫したり、協力したり、役割を分担したりして物事をやり遂げようとする。 ③ 身近な人と一緒に活動する楽しさを味わい、相手に対する思いやりや感謝の気持ちをもつ。 ④ 決まりの大切さやしてよいこと、してはいけないことがあることが分かる、行動しようとする。
	人間関係	① 先生や友達と共に遊ぶことの楽しさを感じる ② 園生活の中で、「こんな時はこうしよう」と考えて行動する ③ できることを自分でやろうとする ④ 自分の思いを相手に伝えようとする ⑤ 友達に対しては心を開く ⑥ 遊びの中で自分がいることが分かる、いろいろな役になって遊ぶことを楽しむ ⑦ 園では、していいこと、してはいけないことがあることに気付く ⑧ なにかしてもらったらお礼を言う ⑨ 友達が頼っていることが分かり、手伝ってあげよう、助けてあげようという気持ちをもつ ⑩ 生活や遊びには決まりがあることが分かる ⑪ 自分のもの、友達のもの、みんなのものの区別ができる	① 集団遊びの楽しさを知り、いろいろな友達と多様な遊びを楽しむ ② 自分で考えて、自分のやり方で遊びや製作などを行うようになる ③ 身の回りのこと、道具の使い方などを自分から人で行おうとする ④ 自分なりに目的をもち、うまくいかなかったら最後までやろうとする ⑤ 相手にも思いやりを感じ取り、相手の思いを受け入れて行動しようとする ⑥ 友達の良いところを気付く ⑦ 友達と相談し、協力して遊んだり、働いたり、作ったりする ⑧ 何が悪いのかやいいのかわからない、なぜ悪いのかやいいのかわかる ⑨ 友達の思いに気付いて、貸してあげたり、分けてあげたり、順番を替わったりする ⑩ 決まりを守ろうとし、集団行動でもルールに従って行動できる ⑪ みんなのものを自分のものと同じように大切に扱うとする	① 自分にふさわしい場面や物、活動、目標を選ぼうとする ② 生活の中で必要となることを自分で考え、責任を持ってやろうとする ③ できなかったことがあっても自分から、自分工夫したり友達と協力したりしながらやりとげようとする ④ 相手の気持ちを思いやり、一緒に喜んでいられるようにする ⑤ 自分の思いを出し相手に思いを受け入れて、みんなが納得できる行動しようとする ⑥ 友達よきに気付く、それよきよきを生かして活動する ⑦ 目的に向かって、役割を分担し、協力して取り組んでいこうとする ⑧ 自分の行動が良かったのか悪かったのか考えようとする ⑨ 自分たちのためにしてくれていることに感謝の気持ちをもち、自分も何かしようという気持ちをもつ ⑩ 相手の気持ちや友達のことを考えて行動しようとする ⑪ 決まりを守ろうとし、集団行動でもルールに従って行動できる

期別の教育課程（3歳児～5歳児）

「10の姿」を意識して作成

- 期別 I 期（4、5月） II 期（6～8月）
- III 期（9～12月） IV 期（1～3月）

- ・年間を通して達成を図るもの
- ・期別で達成するもの

例：3歳児

年間を通したねらいとして達成を図るもの	
<p>「健康」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分なりのペースで、落ち着いて行動する ・危険な場所や行動が分かる <p>「人間関係」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園生活の中で、「こんな時はこうしよう」と考えて行動する ・遊びの中で役があることが分かり、いろいろな役になって遊ぶことを楽しむ ・園では、していいこと、してはいけないことがあることに気付く 	<p>「環境」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使うものや作ったものを大切にしようとする ・数や量を数えたり比べたりすることに興味を持つ ・簡単な製作や生活習慣に必要な技能を身に付ける <p>「言葉」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・したいこと、してほしいことを言葉で表現する ・朝の挨拶や帰りのあいさつができる

期別のねらいと内容

	I 期(4・5月)	II 期(6・7・8・9月)	III 期(10・11・12月)	IV 期(1・2・3月)
「健康」	・保育者に親しみ、安心感を持って生活する ・みんなと一緒に食べる楽しさを感じる ・生活の仕方が分かり、身の回りことを自分で行うとする	・戸外で体を動かして遊ぶ楽しさを感じる ・いろいろな活動に自分から取り組もうとする ・遊びを楽しみながら、好きなことに挑戦しようとする ・夏の生活の仕方を知り、自分でやってみようとする	・体を動かして、様々な活動に取り組む楽しさを味わう ・季節の変化に応じた生活習慣を身に付ける ・思い通りにいかなくても、もう少しやってみようとする ・遊んだ後は片付けることの大切さを感じる	・冬の寒さに負けず、戸外で思い切り体を動かして活動しようとする ・冬の生活の仕方を知り、身の回りのことを自分から取り組もうとする ・進級することに期待を持ち、様々な活動に意欲的に取り組む
「人間関係」	・先生や友達と過ごす喜びを味わう ・友達に自ら関わりながら、関わることの楽しさや喜びを感じる	・好きな遊びを楽しむ中で、友達と関わり合うことを楽しむ ・周りの子どもの存在に気付く、関心を持った ・同じことをして遊ぶことを楽しむ	・しなやかな動きを身に付けて、自分からしようとする ・好きな遊びを十分に楽しみながら、友達との関わりを深める	・生活に見通しを持ち、身の周りのことを自分で行うとする ・友達や保育者と簡単なルールのある遊びを楽しむ

「養護」に関する「ねらい」「内容」を期別で作成した。

2 連続性のある指導計画（月別指導計画、週案、日案）

【研究当初の課題】

- ・教育課程の位置付けとねらい、内容の意味が理解されていない
- ・教育課程のねらい、内容が各月の指導計画に十分反映されない
- ・教育課程 ↔ 月別指導計画 ↔ 週案 ↔ 日案が連動していない
- ・各指導計画のねらい、内容が抽象的で分かりにくい
- ・学年間の逆転
- ・指導計画を立てることができない

➡ 指導計画（月⇔週⇔日）のねらいと内容、活動を連動させる

＜月別指導計画作成の基本方針＞

- ・ねらいと内容は、期別の教育課程に基づいて、各学年の子どもの平均的な発達の姿から具体的に設定する
- ・月別のねらいと内容は領域別に示し、原則として各月とも1領域1項目とする。必要な場合には1つのねらいに2つ内容を設定する。
- ・ねらい、内容と経験させたい活動、環境構成、援助は、連動させる。
- ・月末に子どもの姿をもとにねらいと内容の達成状況を把握し、翌月に生かす。

➡ 記入の仕方（記入要領）を示す

➡ 保育者の資質向上へ

➡ 実践、評価をカリキュラム・マネジメントにつなぐ

月別指導計画（0歳児）

※ 養護は略

・三つの視点から「ねらい」「内容」を設定

例：4月

A児（3ヶ月）
B児（6ヶ月） C児（6ヶ月）

＜実施後に記入＞

【3～6ヶ月】

- ・仰向けから横向きに寝返りをする B・C
- ・「いない、いない、パー」を遊ぶ B・C
- ・ガラガラを振ったり眺めたりする B・C
- ・人を見ると笑いかける B・C (A)

0歳児、1歳児の教育課程と指導計画の関連

月齢	0歳児教育課程			1歳児教育課程			2歳児教育課程				
	3ヵ月～6ヵ月	7ヵ月～9ヵ月	10ヵ月～1歳未満	1歳～1歳3ヵ月	1歳3ヵ月～1歳6ヵ月	1歳6ヵ月～1歳9ヵ月	1歳9ヵ月～2歳未満	2歳～2歳3ヵ月	2歳3ヵ月～2歳6ヵ月	2歳6ヵ月～2歳9ヵ月	2歳9ヵ月～3歳未満
0歳児 学級	→										
1歳児 学級	→										

月齢	0～3ヶ月			3～6ヶ月			7～9ヶ月			10～12ヶ月		
	※ 4月のため、未記 A児（3ヶ月） A			B児（6ヶ月） C児（6ヶ月） B C			D児（8ヶ月） E児（9ヶ月） D E			F児（11ヶ月） G児（11ヶ月） G H		
ねらい	ねらい											
内容	内容											
ねらい	経験してほしい活動											
環境構成	環境構成											
援助	援助											

月別指導計画 (2歳児)

例: 8月

月別指導計画

10月8~3月生まれ

4月~9月生まれ

幼児の姿

養護

教育

Main table for 2-year-old plan with columns for '前月の子ども' (Previous month's child), 'ねらい' (Aim), '内容' (Content), '環境構成' (Environment), '援助' (Support), '食育' (Food), '行事' (Events), '評価・考察' (Evaluation/Reflection), and '進捗' (Progress).

5領域から「ねらい」「内容」を設定
I期・II期(4月~9月)は、月齢に分ける

ねらい

内容

経験してほしい活動

環境構成

援助

評価・考察

月別指導計画(月案) (3歳児~5歳児)

例: 5歳児 9月

Main table for 3-5 year old plan with columns for '幼児の姿' (Child's appearance), 'ねらい' (Aim), '内容' (Content), '環境構成・援助' (Environment/Support), '行事' (Events), '評価・考察' (Evaluation/Reflection), and '進捗' (Progress).

自分の役割を感じながら、友達と遊ぶを進める面白さや協力する楽しさを味わう。

経験してほしい活動

環境構成・援助

役割を話し合って決め、協力したりルールを守ったりして遊ぶを進める

期別の教育課程(Ⅲ期)【人間関係】

(ねらい) ・友達と共通の目標を持ち、役割を分担して協力して達成しようとする。
(内容) ・友達と共通の目的を見つけ、お互いの意見を受け入れながら協力して遊びに取り組み。

伝統的・社会的行事

今日の歌・絵本

食育

保健

評価・考察

週指導計画（週案）（3歳児～5歳児）

月案のねらい		月案の内容	
1. 友達と目標を持って遊ぶ。 2. 自然の環境に興味を持ち、観察し、自分の発見を伝えようとする。 3. 自然の環境に興味を持ち、観察し、自分の発見を伝えようとする。 4. 自然の環境に興味を持ち、観察し、自分の発見を伝えようとする。 5. 自然の環境に興味を持ち、観察し、自分の発見を伝えようとする。	1. 自然の環境に興味を持ち、観察し、自分の発見を伝えようとする。 2. 自然の環境に興味を持ち、観察し、自分の発見を伝えようとする。 3. 自然の環境に興味を持ち、観察し、自分の発見を伝えようとする。 4. 自然の環境に興味を持ち、観察し、自分の発見を伝えようとする。 5. 自然の環境に興味を持ち、観察し、自分の発見を伝えようとする。	1. 自然の環境に興味を持ち、観察し、自分の発見を伝えようとする。 2. 自然の環境に興味を持ち、観察し、自分の発見を伝えようとする。 3. 自然の環境に興味を持ち、観察し、自分の発見を伝えようとする。 4. 自然の環境に興味を持ち、観察し、自分の発見を伝えようとする。 5. 自然の環境に興味を持ち、観察し、自分の発見を伝えようとする。	1. 自然の環境に興味を持ち、観察し、自分の発見を伝えようとする。 2. 自然の環境に興味を持ち、観察し、自分の発見を伝えようとする。 3. 自然の環境に興味を持ち、観察し、自分の発見を伝えようとする。 4. 自然の環境に興味を持ち、観察し、自分の発見を伝えようとする。 5. 自然の環境に興味を持ち、観察し、自分の発見を伝えようとする。
ねらい	内容	予想される活動	評価・観察
① 自然の環境に興味を持ち、観察し、自分の発見を伝えようとする。 ② 自然の環境に興味を持ち、観察し、自分の発見を伝えようとする。 ③ 自然の環境に興味を持ち、観察し、自分の発見を伝えようとする。 ④ 自然の環境に興味を持ち、観察し、自分の発見を伝えようとする。 ⑤ 自然の環境に興味を持ち、観察し、自分の発見を伝えようとする。	① 自然の環境に興味を持ち、観察し、自分の発見を伝えようとする。 ② 自然の環境に興味を持ち、観察し、自分の発見を伝えようとする。 ③ 自然の環境に興味を持ち、観察し、自分の発見を伝えようとする。 ④ 自然の環境に興味を持ち、観察し、自分の発見を伝えようとする。 ⑤ 自然の環境に興味を持ち、観察し、自分の発見を伝えようとする。	① 自然の環境に興味を持ち、観察し、自分の発見を伝えようとする。 ② 自然の環境に興味を持ち、観察し、自分の発見を伝えようとする。 ③ 自然の環境に興味を持ち、観察し、自分の発見を伝えようとする。 ④ 自然の環境に興味を持ち、観察し、自分の発見を伝えようとする。 ⑤ 自然の環境に興味を持ち、観察し、自分の発見を伝えようとする。	① 自然の環境に興味を持ち、観察し、自分の発見を伝えようとする。 ② 自然の環境に興味を持ち、観察し、自分の発見を伝えようとする。 ③ 自然の環境に興味を持ち、観察し、自分の発見を伝えようとする。 ④ 自然の環境に興味を持ち、観察し、自分の発見を伝えようとする。 ⑤ 自然の環境に興味を持ち、観察し、自分の発見を伝えようとする。

第1週

第2週

第3週

第4週

第5週

1ヶ月分の週案を1枚にする
各週の「ねらい」「内容」の
つながり(連続性)が見える

日案 5歳児

10月18日(月)		10月19日(火)	
ねらい	内容	ねらい	内容
① お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。 ② お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。 ③ お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。	① お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。 ② お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。 ③ お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。	① お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。 ② お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。 ③ お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。	① お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。 ② お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。 ③ お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。
ねらい	内容	ねらい	内容
① お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。 ② お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。 ③ お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。	① お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。 ② お話に楽しみをもち、友達と予想される活動 環境構成・援助 ③ お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。	① お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。 ② お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。 ③ お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。	① お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。 ② お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。 ③ お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。
ねらい	内容	ねらい	内容
① お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。 ② お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。 ③ お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。	① お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。 ② お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。 ③ お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。	① お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。 ② お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。 ③ お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。	① お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。 ② お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。 ③ お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。
ねらい	内容	ねらい	内容
① お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。 ② お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。 ③ お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。	① お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。 ② お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。 ③ お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。	① お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。 ② お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。 ③ お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。	① お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。 ② お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。 ③ お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。
ねらい	内容	ねらい	内容
① お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。 ② お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。 ③ お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。	① お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。 ② お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。 ③ お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。	① お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。 ② お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。 ③ お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。	① お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。 ② お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。 ③ お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。
ねらい	内容	ねらい	内容
① お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。 ② お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。 ③ お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。	① お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。 ② お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。 ③ お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。	① お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。 ② お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。 ③ お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。	① お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。 ② お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。 ③ お話に楽しみをもち、友達と思いや考えを伝えようとする。

予想される活動
環境構成・援助

1週間分の日案を1枚にする
毎日の「ねらい」「内容」の
つながり(連続性)が見える

評価・観察

阿蘇文化の森で、風の心地よさを
感じたり秋の木の美を探したりし
て、早い秋を感じる。
(自然とのかかわり・生命尊重)

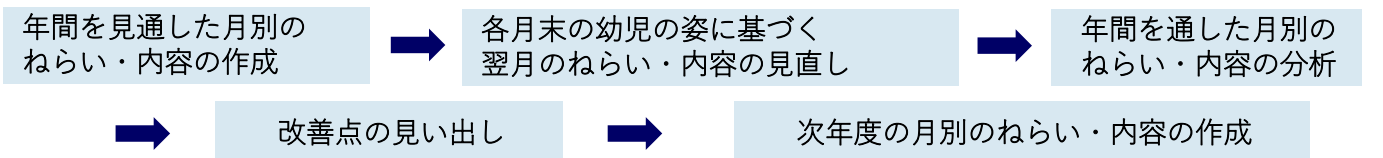
10の姿から見た学び(5歳児)
10の姿につながる学び(3・4歳児)

月別指導計画のねらいと内容の見直し～連続性を図る～

編成した教育課程のねらいと内容を短期指導計画につなぐため

- ・ 学年別、月別のねらいと内容が、発達段階を踏まえた系統性のあるものか
- ・ 年間のねらい、内容は適切であったか

《見直しの手順》



【月別指導計画のねらい・内容 分析の観点】

- ① 必要なねらいと内容が欠けることなく、かつ、バランスよく設定されているか。(「10の姿」の視点から)
- ② 発達及び各領域のねらいと内容に対応したねらいと内容になっているか。
- ③ ねらいと内容に継続性と発展性があるか。
- ④ ねらいと内容が子どもの姿に合わせて修正されているか。

- ◆ 全体としては年齢や期の発達に対応したねらいと内容を設定していた。
- ◆ 下の学年や同一学年で既に設定されているねらい、内容と似通ったものや、ほぼ同一のねらいと内容が繰り返し設定されているものがあり、修正を加えた。

【「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」から見たバランス】

3年次

「10の姿」の内容別集計表

10の姿と内容		年齢			計	10の姿別計
		3	4	5		
(2) 健康な心と体	① 安定感・充実感を持つ	1	0	0	1	27
	② 見通しを持って行動する	0	0	2	2	
	③ 心と体を十分に働かせる	5	7	6	18	
	④ 健康で安全な生活を作り出す	4	0	2	6	
(2) 自立心	① しなければならぬことを自覚する	1	0	0	1	11
	② 自分の力で行動する	4	0	0	4	
	③ 諦めずにやりとげる	0	3	3	6	
	④ 自信を持って行動する	0	0	0	0	
(3) 協同性	① 思いや考えなどを共有する	5	2	1	8	18
	② 共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりする	1	4	5	10	
(4) 道徳性・規範意識の芽生え	④ してよいことや悪いことが分かる	2	0	0	2	19
	⑤ 友達や先生に共感したりし、相手の立場に立って行動する	1	4	2	7	
	⑥ きまりをついたり、守ったりする	3	6	1	10	
(5) 社会生活との関わり	⑤ 家族を大切にしようとする気持ちをもつ	0	0	0	0	0
	⑥ 地域や身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付く、相手の気持ちを考えたり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつ	0	0	0	0	
	⑦ 情報を取立てながら活動するようになる	0	0	0	0	
	⑧ 公共の施設を大切に利用する	0	0	0	0	
(6) 思考力の芽生え	① 物の性質や仕組みを感じ取る	1	2	1	4	10
	② 気付いたり、考えたり、工夫したり、予想する	1	2	3	6	
	④ 自分と異なる考え方があることに気付く、自分の考えをより良いものにする	0	0	0	0	
	⑤ 数量や図形に関心をもち、活用する	0	1	0	1	
(7) 自然との関わり・生命尊重	① 身近な自然現象に関心をもち	11	11	7	29	34
	② 命あるものを大切に	0	0	5	5	
(8) 数量や図形、標識や文字などの関心・感覚	① 数量や図形に関心をもち、活用する	0	1	0	1	5
	③ 標識や文字に関心をもち、活用する	0	2	2	4	
(9) 言葉による伝え合い	④ 経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞き、言葉による伝え合いを楽しむ	8	6	8	22	35
	⑤ 絵本や物語などに親しむ	4	3	2	9	
	⑥ 豊かな言葉や表現を身に付ける	2	0	2	4	
(10) 豊かな感性と表現	⑥ 心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる	0	1	0	1	26
	⑦ 様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付く	3	5	2	10	
	⑧ 感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わう	8	8	9	25	
	⑨					

※「10の姿」は、5領域のねらい及び内容に基づく活動全体を通して育まれる資質・能力の具体的な姿である。育ちの方向を意識して指導することにより育まれる。
(幼稚園教育要領、教育・保育要領より)

≪月別指導計画のねらい、内容を「10の姿」の内容で整理≫

◆ かなりのばらつきが見られた。

(多い姿) 「言葉による伝え合い」

「自然との関わり・生命尊重」

(少ない・無い姿)

「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」

「社会生活との関わり」

◆ 指導後に作成している保育記録では、低い数値の「10の姿」を読み取っている。

⇒ バランスを考え、各指導計画や保育に留意する

19

3-(1) 保育を可視化し、保育改善に生かす

※初年度より取組を開始
月1~2枚作成

① 個に焦点を当てた保育記録「エピソード記録」

- ・ 保育場面で心に残った子どもの姿を記録にまとめる
- ・ 個人に焦点を当て、遊びの中の学びや固有の発達を具体的に捉え、分析 する
- ・ 豊かな遊び・学びを可視化し、他者に伝わるように記載する
- ・ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」から学びをとらえる
- ・ 保育カンファレンスで内容を協議し、作り変える

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点を踏まえて子どもの学びを捉える

「10の姿につながる学び」(4歳以下)を学園独自の表現で表記

「言葉による伝え合い」 ⇒ (2歳児)「言葉で伝えようとする」 (3歳児)「言葉で伝える」

「自立心」 ⇒ (2歳児)「自分でしようとする」

(3歳児、4歳児)「自立心の芽生え」

「協同性」 ⇒ (2歳児)「友達と一緒にしようとする」

(3歳児、4歳児)「協同性の芽生え」

「思考力の芽生え」 ⇒ (2歳児)「自分で考えようとする」

20

エピソード記録

実践に係る月のねらい

事例のタイトル

なかよしカブトムシ
外にとぼそう！

「印象的な活動の画像」

「考察」

・固有の発達を捉えてその子の活動や学びを考察する

・アコは年少児より入園し、なかなか友達関係が広がらなかった。生き物が好きでカブトムシも大切に育てた。アコの生き物への関心が深まったことで、今回の遊びが生まれたと考える。

・今回の最も大きなアコの育ちは「友達と一緒に遊ぶ」である。いつもなら1人で黙々と作るはずだが、友達と一緒にカブトムシの世話をしたり、気持ちを伝え合ったりしたことで「友達と一緒に楽しい」「もっと遊びたい」という気持ちが強まり、一緒に遊び込んだのだと考える。

・子どもが何が好きなか、どのように遊んでいるかを観察し、見守る大切さを改めて感じた。

エピソード記録		
令和4年 9月 21日 14時半頃	5歳児	筆者:
月のねらい	友達と感じたこと、考えたことを様々な方法で表現することを楽しむ。	
事例のタイトル	「なかよしカブトムシ! 外にとぼそう!」	
環境構成	感じたことや考えたことを、すぐに作ったり描いたりして表現できるように、素材(おりがみ、画用紙、カップなど)や用具(カムテープ、セロハンテープなど)を用意する。	
<活動・遊びの様子>	子どもがつぶやき・会話(事実)> アコとユアが、図鑑を見ながら「このカブトムシの足の先に、細いギザギザがついとる」「羽を広げたらこんな感じかあ」と、特徴を捉えながらカブトムシを描いていた。2人は描いたカブトムシの絵を切り取り、前に乗せて遊んでいた。アコは、「アコの脚を多めにしよう!」「お散歩していいよ!」「アちゃんのカブトムシとくっつけてみよう」と伝え、カブトムシを自分とアコの脚に乗せた状態で、近づけていた。アコは、「くっついた!」「わたしたちのカブトムシ、なかよしカブトムシ!」と喜び、遊ばせた。さらに、「他にもトンボとかセミとかたくさん虫かいて、なかよしつくろう!」「あ! そうだ! たくさん虫つくつたら、その虫たちを外にとぼそうよ」と、考えを伝えた。ユアも、「いいね! じゃあ私トンボかきね」と言って描き始めると、アイカやユナ、リサ達も「わたしたちも、描きたい!」と、集まって来て、遊びが再び始まった。たくさんの虫ができると、アコは「そうだ! 虫たくさんかいたら、虫取りみたいにしたいたから網もつくろう」と、紙で網をつくり始めた。 アコは、「ここがいかんあ!」一緒に木についたら喜ぶかなあと、伝え合いながら、描いた虫を外に付けた。「アコちゃん、いいよ! 木につけて、とぼしとるけん…そーつとあみでつかまえて!」と言い、遊び始めた。	
考察	アコは、年少児より入園した。入園当初から荷物の片付けや昼食、遊びの片付け、製作など、ひとつひとつに時間をかけ、マイペースで行動していた。自分の思いもあまり積極的に伝える方ではなく、仲の良い友達ができる。その友達にはよく伝えていたが、そこから他の友達関係が広がる様子は見られなかった。年中、年長と進級しても、マイペースな性格は変わらず、友達関係も変わらないように見えた。 ダンゴムシが出てくる5月頃、アコが3匹ほどダンゴムシ見つけて家をつくり、大切に世話をしていることがあった。そのダンゴムシが死んでしまうと、隣の方で土をかけてお墓をつくってあげる姿が見られたので、命の大切さ、生き物を大切にすることをアコなりに知っているのだと以前から感じていた。その後、家庭からカブトムシを持ってきて、みんなに見せ、一緒に世話をしたり、調べたり、気持ちを伝え合ったりしたことで生き物への関心がさらに深まっていったように感じている。 そういう経緯でアコの生き物への関心が深まったことや生き物が大好きという点で、今回の遊びが生まれたと考える。さらに、今回の最も大きなアコの育ちは、「友達と一緒に遊ぶ」である。いつもなら1人で黙々と作るはずだが、友達と一緒にカブトムシの世話をしたり、気持ちを伝え合ったりしたことで「友達と一緒に楽しい」「もっと遊びたい」という気持ちが強まり、一緒に遊び込んだのだと思う。また、アコの生き物が大好きという気持ちから、「仲よしカブトムシ」という言葉が出てきたり、「外にとぼそう!」木につけて、あみでつかまえてみよう」という面白い発想を生み出した。この遊びの最中に、年中児も「面白そう!」「僕もしたい!」と集まってきて、異年齢にも遊びが広がり、効果的であった。 その子どもは何が好きで、その好きなこと、やっていることに目を向け、そのことがどのように広がったり深まったりしているのか、しっかりと観察したり見守ったりする大切さを改めて感じることができた。	
<幼児期の終わりまでに育ってほしい姿>	・身近な生き物に関心を持ち、友達と一緒に感じたことや考えたことを伝え合い、遊びに取り入れることのおもしろさを味わう。 (自然との関わり・生命尊重)	
<遊びに必要なものを描いたりつくったりし、自分達なりに表現することを楽しむ。>	・遊びに必要なものを描いたりつくったりし、自分達なりに表現することを楽しむ。 (豊かな感性と表現)(思考力の芽生え)	

「エピソードに係る環境構成」

「活動・遊びの様子」

・個人に焦点を当てる
・子どものつぶやきなど、事実のみを記載する

アコとユアが、図鑑を見ながら「カブトムシの足の先に、細いギザギザがついとる」「羽を広げたらこんな感じかあ」と特徴を捉えながら描いていた。そのうち、「トンボとかセミとか、たくさん虫かいて、なかよしつくろう」「そうだ! たくさん虫つくつたら、外にとぼそう!」と話しながらかけた。できあがると、園庭に行き「一緒に付けたら喜ぶかな」などと話しながら木に付け、虫取り遊びを始めた。

「10の姿」から学びを分析する

・身近な生き物に関心を持ち、友達と一緒に感じたことや考えたことを伝え合い、遊びに取り入れることのおもしろさを味わう。

(自然との関わり・生命尊重)
(言葉による伝え合い)

・遊びに必要なものを描いたりつくったりし、自分達なりに表現することを楽しむ。
(豊かな感性と表現)(思考力の芽生え)

「エピソード記録」の効果

◆全体としてとらえていた遊びから、個人の遊びや成長、発達に目を向けた保育に変わってきた。

➡ 「みんなが」ではなく、「〇〇さんが」へ
学びは、個に成立しなければならない

◆子どもの活動を読み取る視点が、多様になった。

◆具体的で詳細な記録、育ちや学びの把握へと変化した。

◆「10の姿」から育ち(学び)の姿を捉えることが、保育者に定着した。

◆ねらいの達成状況、環境構成、援助に視点を当てて保育を振り返るようになった。

◆自分の保育や子どもを読み取る視点を見直し、実践的指導力を高めることにつながった。

➡ マンスリー・エピソードへ

領域「環境」に関連するエピソード

身近な事象や動植物に進んで関わり、その特徴や命の大切さに気付く。

【ねらい3】

身近な事象や動植物に進んで関わり、その特徴や大切さに気付く。

理解し、受けとめることの大切さが分かる。

考えたこと 活動のタイトル 分達なりの表現をし

活動の様子

セミの友達といっぱい遊んだのかなあ

つまようじみたいに細いのがついとる!

いっぱい鳴いて頑張ったんだね!

こっちがアブラゼミ



こっちがクマゼミ

この細いのでごはん食べとったのかも!

ユイトがセミの抜け殻、レキが死んでしまったセミと2枚の羽を見つけ、2人で比べ合っていた。「抜け殻から出てきたら、足の長さは一緒だけど体は大きくなるんだね」「羽はどうやって抜け殻に入ってたんだろう…」「きれいに曲がってたのかなあ…」「口の先につまようじみたいに細いのがついとる!」「この細いので、ごはん食べとったのかも!」「こっちがクマゼミの羽で、こっちがアブラゼミの羽だね」と、抜け殻とセミの特徴を伝え合っていた。「絵本にさ、セミは土の中に5年もいるのに、1週間しか生きないって書いてあったよね」「木に登って、セミの友達といっぱい遊んだのかなあ」「楽しかったのかなあ」と、セミの気持ちになっていた。

〈子どもの気付き〉

- ・セミの抜け殻とセミを比べて、足の長さは同じだが、体はセミの方が大きい。羽はきれいに曲がって入っていたと考える。
- ・抜け殻の先につまようじみたいに細いものがついていて、そこでごはんを食べていたと考える。

子どもの気付き

〈10の姿から見た学び〉

- ・セミとセミの抜け殻を見比べ、特徴(体の大きさ、羽、口など)を伝え合ったり、セミの気持ちになったりし、命の大切さ、尊さを感じる。(自然との関わり・生命尊重)(言葉による伝え合い)

10の姿から見た学び

「マンスリー・エピソード」の効果

- ◆ 月別指導計画に基づく1ヶ月の子どもの姿を可視化することにより、見えにくい指導計画が具体的にイメージされる。
- ◆ 5領域のねらい、内容、活動(遊び)が 連動した指導計画になる。
- ◆ ねらい(P)⇒活動(D)⇒評価(C)⇒改善(A)の意識が育つ。
- ◆ 子どもの遊びや活動に対する観察力や記録力が向上する。
- ◆ 経験の浅い保育者も取り組みやすく、「10の姿」の視点から子どもの育ちを読み取ることが、保育者に定着する。
- ◆ 各月の保育の評価、反省、改善に活用できる。保育の見直しや次年度の指導計画に活用しやすい。

保育者の考察より

マンスリー・エピソードやエピソード記録を書くことで、月のねらいが具体的に達成される遊びが展開されていたのか、子ども達の姿に合わせた月のねらい・内容を計画することができていたのか等を確認することができた。また、それらを振り返ることで、指導計画に沿った保育を意識したり、自らの保育について反省したりすることができた。

3-(2) 子どもの主体性を生かす保育実践

保育を変える

- ・ **保育環境の見直し** 子どもが関わりたくなる環境へ
学びが促される環境へ

- ・ 「保育者中心の保育」から「**環境を意識した子ども主体の保育**」へ
集める保育から、集まる保育へ
- ・ 「活動中心の保育」から「**ねらいを意識した保育**」へ
- ・ 主体的活動の促し



保育研究会で、積み重ねてきたこと

- ① 「ねらい」「内容」の意味、教育課程を意識した保育とは何か
- ② 「ねらい」「内容」と実践との整合性、「ねらい」「内容」の適切性
- ③ 環境構成の意図、保育者の援助は、子どもの主体性や学びを促すものであったか
- ④ 学年に応じた豊かな学びが得られたか（「10の姿」の視点から）

【子どもの育ちを確かにする保育の視点】

- (1) 子どもが経験を継続的、発展的に積み上げていく保育を創る
- (2) 子どもの発達していくプロセスを具体的に把握し、指導計画を立てる
- (3) 指導計画に発達段階を踏まえた具体的な「ねらい」と「内容」を設定し、ねらいと内容を意識した保育を実践する
- (4) 子ども一人一人の思いやどのような体験を積み重ねているか、学びや発達の姿を「10の姿」の視点で読み取り、環境の再構成や指導計画に反映させるカリキュラムマネジメントを行う
- (5) 子どもの豊かな体験を促し、子どもが自ら主体的な活動を展開して学びを深めていくような環境を構成する
- (6) 子どもが主体的に活動に取り組み、考えたり、試したり、工夫したり、活動を振り返ったりするように援助する
- (7) 発達に応じて子ども同士の対話を促すとともに、活動を振り返る場を設定して学びや意欲を高める
- (8) 保育者が子どものモデルとして、望ましい姿を見せる

実践【3歳児】

身近な草花や虫と親しみ、自然の不思議さや面白さ、特徴に気付く力を育む

4～7月 月別指導 計画	ねらい	○身近な自然に興味を持ち、触れて遊ぶ楽しさを感じる。 ○身近な素材を使って遊ぼうとする。 ○自然の面白さや不思議さ、特徴に気付き、考えたり試したり伝えたりしようとする。
	内容	・園庭の草花を見つけたり、触ったりする楽しさが分かる ・動植物に関わったり、砂や土の感触を楽しんだりする。 ・自然の面白さや不思議さが分かり、遊びに取り入れる。考えたり作ったり試したりしながら遊びを進める。

「園庭遊び、園外活動」

- ・園庭で草花に触れて遊ぶ。
- ・近隣の公園へ出かけ、タンポポやテントウムシなどの草花や虫達に触れて遊ぶ。

公園に
3度出かける

「色水遊び、綿毛遊び」

- ・草花や木の実を使って色水遊びをする。
- ・見立てたり飾ったりして遊ぶ。
- ・タンポポの綿毛で遊ぶ。(飛ばす、貼る絵を描く等)

「ヒマワリをつくろう」

- ・園庭の花を、絵具、ローラー、手等で描く。
- ・描いたものや気持ちを伝え合う。

1回目 (保田窪公園) 園の裏手

《ねらい》・身近な春の自然に触れる



ダンゴムシいた!



シロツメグサのブーケ、かわいい～!

2回目 (東海グラウンド)

《ねらい》・身近な自然に見たり触れたりして、自然物を使って遊ぶ楽しさを感じる。
・友達と関わって遊ぶ楽しさに気付く。

- ・園から約700m
- ・草花 (タンポポ、ハルジオン)
- ・虫 (チョウやテントウムシ、バッタ等) が生息
- ・豊肥本線の列車が走る

ひろくて
ゆめみたい!

2回目 (東海グラウンド)



タンポポがいっぱい!



ふう～

虫取り網をもっていきたい
絵本を見たい

タンポポの綿毛で遊ぶ / チョウをつかまえようとするが捕まらない

3回目 (東海グラウンド)



モンシロチョウを捕まえた



ほら、いっしょ

絵本でタンポポを確かめる

すごい、つよい!



タンポポの根が抜けない

<10の姿につながる学び>

- ・目的地まで、自分で歩く。 (健康な心と体)
- ・友達と一緒に探したり調べたりする楽しさに気付く。 (協同性の芽生え)
- ・身近な草花や虫に、見たり触れたり捕まえたりして自ら関わって遊ぶ。 (自然との関わり・生命尊重)
- ・絵本や図鑑を見て、同じ花を探したり見比べたりしながら探す。 (思考力の芽生え)
- ・タンポポの根の強さや綿毛の特徴に気付く。

【綿毛遊び～タンポポってすごい～】 保育室にて

《ねらい》・タンポポの綿毛の特徴や不思議さを感じる。

綿毛を水につけた時の面白さや不思議さを感じて欲しいと願い、意図的に投げかけた。綿毛が水を弾く不思議さや驚きを感じ、子どもなりに考えて自分の言葉や表情で伝える姿が見られた。



綿毛を水に入れてみる

すごい! こわれてない。

タンポポは水が好きなんだよ。
だから、ぬれないんだよ。

「色水遊び」～オシロイバナの色水、つぶすとできた～



色が見えなかったのにおにいちやん、すごい!

セナとミイナは、すり鉢とすり棒を使って、オシロイバナの黄色の色を出そうと試みたが、色が出てこなかった。通りかかった年長児が、2人に声を掛けた。セナが、今までのことを一生懸命言葉で伝えと、年長児は「かしてん」と言ってオシロイバナの花をすり棒で潰し、水を少し加え、混ぜると色が変わった。

2人はその様子を見つめ、「お兄ちゃん、すごい」と、驚きの声を上げた。自分達も同じようにして色を出すことができ、友達にもその方法を教えた。

年長児がすりつぶしてみせる

<学びを促す保育者の援助>

- ・自分でやってみようとする子どもの姿を見守る。
- ・子どもの実態や要求に応じて、環境を準備する。
- ・子どもの気付きや体験を広げる活動に誘う。
- ・子どもの困り感を丁寧に読み取る。

《ねらい》

- ・身近な自然（ヒマワリの花・葉・種）に触れ、不思議さや特徴に気付く。
- ・様々な素材（絵の具、不織布、段ボール紙など）を使って、つくったり遊んだりすることを楽しむ。

<10の姿につながる学び>

- ・ヒマワリの葉や花を使って遊ぶ楽しさを感じる。 (自然との関わり・生命尊重)
- ・自分1人では難しいことも、友達が一緒にしてくれると出来る。 (協同性の芽生え)
- ・自分が考えたことを友達が聞いてくれると、もっとしてみたいくなる。 (言葉で伝える)
- ・色や形を工夫しながら表現する楽しさを味わう。 (豊かな感性と表現)

「ヒマワリをつくろう」



葉っぱ、大きい



ヒマワリの花を見ながら描く



おっきい～!

大きなヒマワリが咲き、子ども達の興味が高まったので、ヒマワリを保育室に持って来て、フィンガーペインティングで花や葉を描いた。絵を組み合わせせて、大きなヒマワリをつくった。

【実践】 5歳児 ～生き物との関わり・小学校への接続～

教材(カイコ)の価値

7月～8月



- ・「カイコ」は、およそ2ヶ月間で、孵化した幼虫が成長し、マユを作って蛹から成虫になり、産卵して死を迎えるという成長過程を観察することができる。
- ・子どもたちの生き物に対する好奇心や探求心を高める教材である。
- ・主体的な活動を通して、多くの気付きや命の不思議さ、大切さを感じ取ることができる。
- ・形や色、成長過程の不思議さ、面白さに着目し、遊びを発展させる 過程で、自分たちで考えて工夫する、子ども同士の思いの伝え合い、 役割分担・協力などの育ちが期待される。

7・8月 月別指導 計画	ねらい	○友達と目的をもって遊びを進めていく面白さや、できた喜びを味わう。 ○身近な事象や動植物に進んで関わり、その特徴や命の大切さに気付く。 ○自分の思いや考えを話したり、相手の思いを受け止めたりしながら共有し、遊びを進める楽しさを味わう。
	内容	・友達と目的を共有し、目的に向かって一緒に試したり、工夫したりする。 ・生き物や植物を育て、特徴や事象について気付いたことを調べたり、発見を楽しんだりする。 ・友達と思いや意見を伝え合ったり相談したりして、遊びを発展させる。
本実践	ねらい	○生き物の成長の面白さや命があることが分かり、大切に世話をしたり観察したりすることを楽しむ。 ○興味をもったこと、分からないことを自分たちで進んで調べたり尋ねたりし、分かる喜びを感じる。 ○みんなで思いや考えを出し合い、遊びに取り入れたり、発展させたりする面白さを感じる。
	内容	・カイコの誕生、変態、繭づくり、産卵などから、成長の面白さや命があること、命が引き継がれることに気付く。 ・細かい所の特徴に気付き、進んで観察したり伝え合ったり、図鑑や絵本で調べたりする。 ・友達と思いや考えを十分に出し合い、それぞれの考えを飼育に活かしたり、遊びに取り入れたりして面白くしようとする。

活動の流れ

カイコと出会う

興味や関心をもち、触れたり調べたりする。

カイコのお世話を する

エサをあげたり、観察したり、成長を記録したりして親しみをもって関わる。

カイコのおうちを つくる

様々な色の画用紙でカイコが入る家をつくり。どの色の家が好きか調べる。

繭から蛾が 出てくる

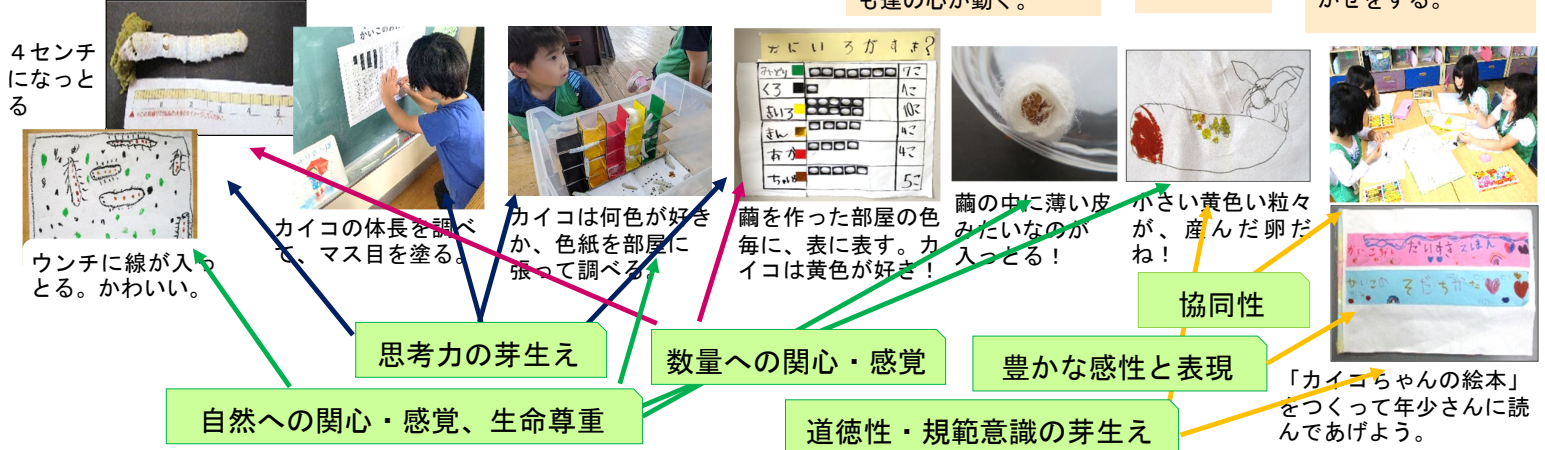
繭に穴が開き、中から白い蛾が出てきた。成長過程(幼虫～死まで)を目で見たことで子ども達の心が動く。

マユから糸をとる

マユを煮て糸取りをする。

絵本をつくろう ～生命の大切さ～

カイコの育ちを振り返り、思い出を絵本にする。年下の園児に読み聞かせをする。



小学校への
接続も意識

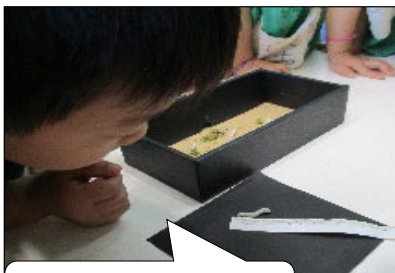
- ・ 小学校1年生の学習指導要領や教科書に目を通し、接続を意識して保育を展開した。
- ・ 小学校教育の前倒しや準備教育を行うことではない。

カイコと出会う 7月12日

ウンチに線が入るとる。
(自然との関わり・生命尊重)

カイコのお世話を する

エサをあげたり、観察したり、成長を記録したりして親しみをもって関わる。



頭あげとる!
キョロキョロしとる!



カイコの体長を調べて、マス目を描く。
(思考力の芽生え)
(数量への関心・感覚)



カイコと遊ぶ
(自然との関わり・生命尊重)



4センチになつとる!
(数量への関心・感覚)



カイコのおうちをつくる7月20日
 様々な色の画用紙でカイコが入る家をつくり。どの色の家が好きか調べる。



かにいろがすま?

みどり	□□□□□□□□	7こ
くろ	□	1こ
きいろ	□□□□□□□□	10こ
まへ	□□□□□□□□	4こ
あか	□□□□□□□□	4こ
ちい	□□□□□□□□	5こ

マユを作った部屋の色毎に、表に表す。
 カイコは黄色が好き！ 2番目は緑！

マユから蛾が出てくる
 マユに穴が開き、中から白い蛾が出てきた。成長過程(幼虫～死まで)を目で見たことで子ども達の心が動く。



カイコちゃんが
 ガに大変身！

マユから ガが 出てきとる！

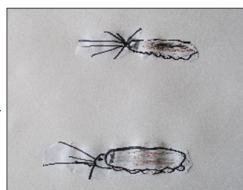
中に薄い皮みたい
 なのが入っとる！



羽をバタバタ動かしてとった

マユから糸をとる
 マユを煮て、糸取りをする。

絵本をつくろう～生命の大切さ～
 カイコの育ちを振り返り、思い出を絵本にする。
 年下の園児に 読み聞かせをする



①こどもえんに かいこが 10びき きました。いろは くろっぽいしろです。おおきさは3センチ。

⑤ほそい いとをくちから だします。

⑥いろが ついた おうちに はないって まゆをつくります。きいろが だいすきです。

⑧まゆに あなをあけて だっぴして がに なります。

<10の姿から見た学び>

- ・カイコの幼虫に親しみを持ち、細かい所 (体の模様、エサを食べる動きなど) に目を向けて観察したり、気づきや発見を友達と伝え合ったりする。(自然との関わり・生命尊重)(言葉による伝え合い)
- ・世話の仕方や疑問に思ったことを図鑑や絵本、Webで調べたり、友達と相談して考えたりする。(思考力の芽生え)(協同性)
- ・図鑑で幼虫から繭になることを知り、様々な色の画用紙で家をつかってどの色の部屋が好きか調べる。(社会生活との関わり)(思考力の芽生え)
- ・幼虫の体の長さを測り、長さが変化していくことに驚きを感じる。(数量への関心・感覚)
- ・カイコを大切に育てることを通して、命の大切さに気付く。(自然との関わり・生命尊重)等

一連の活動を、小学校の教科等への接続の視点で捉える

〈幼児教育での活動〉

〈小学校の教科等〉

- ・お話づくり ⇒ 順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、人との関わりの中で 伝え合う力を高める。 (国語的な活動)
- ・お話づくりの絵 ⇒ 感じたこと、想像したことから色や形を工夫しながらつくる。 (図画工作的な活動)
- ・カイコの体長を図る ⇒ 長さや量、ものの形の特徴を知る。 (算数的な活動)
- ・カイコが好きな色を表に表す ⇒ 身の回りにあるものの特徴を量に着目して捉え、量の大きさの比べ方を考える。 (算数的な活動)
- ・カイコを育てる・観察する ⇒ 育てることで親しみをもち、大切にしようとする。 (生活的な活動)
- ・友達と話し合う ⇒ 生活をよりよくするために友達と協力する。互いの良さを見付け、違いを尊重し合い、仲良くしたり信頼し合ったりして生活する。 (特別活動的な活動)
- ・友達と活動する ⇒ 身近にいる人に温かい心で接し、親切にする。 (特別な教科 道徳的な活動)

夢中になって遊び込むことが、小学校へとつながる

(3) 小学校との連携・接続 ～育ちと学びをつなぐ～

◆ 「10の姿」を子どもの成長を連続して捉える視点として就学先の小学校と共有

- ・幼児教育の学びやが小学校の生活や学習につながるように
- ・幼児教育の評価・改善のために

1 教職員間の協議

認定こども園

熊本市立小学校 2校

① 「10の姿」から見て、卒園児が育っている点

- 「自立心」 これをしたい、自分の役割を果たしたいという子どもが多い
- 「協同性」 遊びや学習で、子ども同士で話し合ったり考えたり工夫したりできる
- 「思考力の芽生え」 自分でできることがないかと考えて、友達を手伝う
- 「自然との関わり・生命尊重」 草花や虫が好きな子どもが多い。苦手な子どもも関わろうとしている。「こども園の時も、バッタを見つけた」「こんな遊びができる」と進んで関わる 等

② さらに育てるべき点

- 「健康な心と体」 基本的な生活習慣に関する育ち
- 「自立心」 見通しをもった行動 指示を待1つ傾向にある
- 「道徳性・規範意識の芽生え」 相手の思いを受け止め、折り合いを付けること等

卒園児の育ちを捉える視点

10の姿	項目
健康な心と体	・体を動かすことが好きで、いろいろな運動遊びに目標を持って挑戦する
	・活動や時間に見通しを持って行動する
	・基本的な生活習慣が身に付いている(椅子に正しい姿勢で座る、後片付け 食事のマナー等)
自立心	・危険な行動をせず、安全に気を付けて生活する
	・人に頼らずに、できることは自分でする
	・自分で考え、自分で判断して行動する
	・自分に自信を持って

この「視点」により協議が焦点化された

- ・共通の視点をもって協議を行い、様々な意見を得た。
- ・幼児教育に生かすことのできる内容であった。
- ・園での学びが小学校の学びへ本当につながっているのかの検証は難しい。

(4) 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」望ましい育ちの確認表

★ 読み取った姿の頻度や内容に、違いがある

- ・数値の高い（多い）姿は、子どもの育ちが見え、読み取りやすい
- ・学年の発達段階によるもの
- ・保育者が意識して読み取っている
- ・数値の低い（少ない）姿は、育ちが見えにくい
本当はその姿が見られるのに、保育者が気付いていない
- ・保育者が、学年に応じた適当な視点をもっていない
例：5歳児が、友達と話しているだけで「言葉による伝え合い」



- ・学年に応じた「『10の姿』の読み取りの視点」の検討会を行い、読み取る力を向上させる
- ・少ない姿は意識して指導計画や教育課程に反映させる
- ・育ちの確認表（3、4、5歳児）を作成して、個人や学級の育ちを確認する

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿に係る育ちの確認表（年長児）

10の姿	項目
健康な心と体	・体を動かすことが好きで、いろいろな運動遊びに目標を持って挑戦する
	・次の活動や行動に、見通しを持って行動する
	・基本的な生活習慣が身に付いている（椅子に正しい姿勢で座る、後片付け 食事のマナー 手洗い 等） ・危険な行動をせず、安全に気を付けて生活する
自立心	・人に頼らずに、できることは自分ですようとする
	・自分で考え、自分で判断して行動する
	・自分に自信を持って行動する ・あきらめずに最後までやりとげようとする ・生活や活動などに必要なものを 自分で考えて用意する
協同性	・共通の目標に向かって、友達と協力しながら取り組み、やり遂げる
	・友達や自分のよさを分かり合い、楽しみながら一緒に遊びを進める
	・相手の気持ちを考えながら、友達のためにしてあげようとする
	・友達の意見を聞き、取り入れようとする ・自分の役割に責任を持って取り組む
道徳性・規範意識の芽生え	・悪い道徳にならなくても気持ちを切り替えて取り組む
	・トラブルになっても折り合いをつけ、話し合って解決しようとする
	・友達や年下の園児の気持ちを考え、優しく接したり思いやりたりする
	・生活に必要なきまりや遊びのルールの大切さが分かり、守ったりルールを考えたりする ・してよいこと悪いことが分かり、悪いことはしない ・みんなの物や自分の物に愛着をもち、大切に扱う
社会生活との関わり	・自分が役に立つ喜びを感じている
	・身近な情報を伝え合ったり活用したりする
	・周りの大人に興味を持ち、関わろうとする ・地域の人と一緒に活動することを楽しむ ・いろいろな国や地域の言葉や文化に興味を持つ
思考力の芽生え	・分からないことがあると、尋ねたり調べたりして分かるようとする
	・身近なものの性質に興味を持ち、比べたり関連付けたり試したり気付けたりする
	・自分で予想し、考えたり工夫したりして解決しようとする ・良いと思ったら、自分とは違う考えを取り入れる
自然との関わり・生き生きとした生活	・身近な自然の変化や特徴に興味を持ち、観察したり探索したりする
	・生き物に関心を持ち、命があることがわかり、優しく関わろうとする ・植物とその成長に興味を持ち、大切に育てようとする ・動物や自然の事物を取り入れ、遊びや生活に活かす

(4) 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」望ましい育ちの確認表

年少児	
協同性	・保育者や友達と、同じ遊びや生活を楽しむ
	・年長児や未満児に関心をもち、関わりを持とうとする
	・喜んでいる、怒っている、悲しんでいるなど、友達の気持ちを感じ取る
	・友達が困っていると助けてあげようとする
年中児	
協同性	・友達と同じ活動に参加し、みんなで一緒に楽しむ
	・何人かで一つの活動に取り組み、思いを出し合う
	・友達のことを考えて行動する
	・友達と一緒に考えたり工夫したりする
	・決められた役割を果たそうとする
年長児	
協同性	・共通の目標に向かって、友達と協力しながら取り組み、やり遂げる
	・友達や自分のよさを分かり合い、楽しみながら一緒に遊びを進める
	・相手の気持ちを考えながら、友達のためにしてあげようとする
	・友達の意見を聞き、取り入れようとする
	・自分の役割に責任を持って取り組む

4 教職員の資質向上に向けた取組

(1) 研修の工夫

① 研修時間の工夫

- 1号認定の子どもが降園した 15:00以降に1時間程設定
研修に参加しない保育者が縦割り保育や合同保育を実施
 - 指導計画等の作成は、16:00頃からの時間を活用
 - 合同研修は、土曜日の勤務を調整して学期1回程度行い、共通実践につなぐ
- ・研究保育は学年単位で行う
・1ヶ月単位の変形労働の導入

② Webサイト(イントラ)の活用

各園の指導計画、各記録、指導案、参考資料等を掲載
どの職員も閲覧可能 他園の取組を参考可

③ Zoomを活用したon-lineによる研修会

- ⇒効果 集合に要する時間の削減、短時間(30分~1H)の研修
県外講師の指導を受けることができる

※ 対面で互いの顔を合わせて協議することの意義は大きい
両者を組み合わせて行うことが必要

41

(2) 保育力を高める研究保育・研修会

研究保育と組み合わせ、OJTで保育力を高める

保育研究会・協議の視点

- ① 子どもが主体的に活動していたか
- ② 「ねらい」「内容」に応じた活動が展開されたか（ねらいと内容の適切性）
- ③ 学年に応じた豊かな学びが得られたか（「10の姿」の観点から）
- ④ 環境構成の意図、保育者の援助は、子どもの主体性や学びを促すものであったか

保育者の感想

- ・教育課程という言葉を知っているだけで、理解していなかったことが分かった。
- ・教育課程は、子どもの成長の道筋である。
- ・育ってほしい姿を具体的にイメージして、学びや遊びが連続していくように、ねらい・内容を設定した指導計画を作成するようになった。



研究開発の成果

【幼児への効果】

<10の姿から見た育ち>

どの年度も評価が高かった姿

「健康な心と体」

やりたいことに主体的に取り組み、満足するまで遊ぶ姿が多く見られた。自分で鉄棒などの目標を決め、目的に向かって遊んでいる。5歳児は、見通しをもって行動するようになった。

「協同性」

同じ遊びに興味をもった子どもが集まり、話し合っ一緒に遊びを進め楽しさを共有している。みんなで話し合う機会を設けてきたことで、みんなの中の一人であることを実感し、一緒に取り組むことが出来ている。

「自然との関わり・生命尊重」

好奇心旺盛で、園庭でチョウを追いかけたり、ダンゴムシ、セミ、カブト虫などを採集し育てたりしている。園庭の花や草の実を使った色水遊びや泥団子づくり、砂絵など土・砂を使って遊び、様々な発見を楽しんでいる。

年度を追うごとに伸びが見られた姿

「思考力の芽生え」

不思議さや疑問に感じたことを調べたり、繰り返し考えて試したり、工夫したりする姿が多く見られた。さらにもっとこうしてみようと、考え直したり、よりよいものにしようとしていたりしている

「言葉による伝え合い」

絵本や物語に親しみ、登場人物の気持を考えて「こうしたらよかったのにね」「この後、みんなでかくれんぼしたんじゃない」等、考えたこと感じた事を伝えられるようになった。自分の思いを伝えるだけでなく、相手の思いも聞いていんな考え方があることに気づき、伝え合うことを楽しんでいる。

どの年度も評価が低かった姿

「社会生活とのつながり」

「道徳性・規範意識の芽生え」

【幼児への効果】

<3つの資質・能力から見た育ち>

知識・技能の基礎

遊びを通して、自然物の性質や身体の働き等、様々な知識や技能を身に付けている。

鉄棒や登り棒に繰り返し挑戦して、うまくできる体の動かし方を体得していた。園庭の虫の住処や好きな食べ物、季節によって見られる草木の実が違うこと、形や香りなどの特徴に気づき（3歳児）、どの場所の土から一番硬い泥団子ができるか等を見つけた（4歳児）。5歳児では、種を数えて量を感じる、カイコの幼虫の体長を図って比較する、繭の数を表に表すと分かりやすいことを知るなど小学校の教科の基礎となる力も育った。

思考力・判断力・表現力の

最も育ちが顕著

遊びや生活の中で、自分で発見したり、自分の考えを試したり、できるように工夫したり、図鑑やタブレットで調べて分かろうとしていたりする力が学年に応じて育った。表現に工夫や創造性をもって取り組んでいる。なぜ失敗したのかを考えて工夫しながら遊びを発展させる姿や、もっとよいものにしようとして話し合っ工夫する姿に育ちが見られた。身の回りの動植物や自然現象の不思議さや面白さ、性質や仕組みに気付いて遊びに取り入れ遊びを創り出そうとしている。

学びに向かう力・人間性等

自分で選んだ遊びや友達と決めた目的に満足するまで取り組み、達成感や充実感を味わうことが次への意欲につながった。3歳児では友達と活動を楽しみ、自分なりに遊びを楽しくしようと工夫する姿に、4歳児では遊びを面白くするために「どうしたらいいか」考えながら工夫し、友達と伝え合う姿に、5歳児では友達と共通の目的に向かって取り組んで達成感を味わう姿に育ちが伺われた。

【教職員への効果】

多くの保育者が自分の保育力の伸びを感じている

<特に向上した資質・能力>

「教育課程を意識した保育」

- ・子どもが楽しんでいる姿に満足していた保育から「ねらい」「内容」の達成を意識した保育に変容
- ・教育課程に沿った指導計画の作成方法の理解と、立案した指導計画に基づく保育実践活

「子どもの主体的動を促し、活動や学びを広げる環境構成と援助の工夫」

- ・「保育者中心の保育」から「環境を意識した保育」（「集める保育」から「集まる保育」）への変容
- ・子どもの興味や関心に着目し、遊びや学びに必要な適当な環境構成や援助の実施
- ・ねらいや内容を具体的に設定し、育ちの見通しを持った意欲や学びを促す環境構成や援助の実施

「一人ひとりの学びに目を向けて子どもの育ちを読み取る力」

- ・エピソード記録、マンスリー・エピソードへの取組の成果
- ・「10の姿」の視点で育ちを読み取ることが日常化し、読み取りが年齢に即したものに变化
- ・一人心の動きに注目し、子どもの意志や気持ちを汲み取りながら保育を展開

【教職員への効果】

「保育の振り返りと改善」

- ・自分自身の保育実践の自己評価や考察によるカリキュラムマネジメントの定着
- ・自分の保育の課題を読み取り、改善につなごうとする姿勢

「職員間の協働性の広がり」

<今後、育てるべき資質・能力>

- ・教育課程を改善する力
- ・「気になる子」への指導・援助
- ・きめ細かな子どもの読み取りと環境の再構成
 - ⇒ エピソード記録を持ち寄っての研修の実施
- ・子どもの主体性と保育者の意図とのバランス
- ・本園での勤務が短い保育者の力量形成

【保護者への効果】

保護者向けアンケートの継続実施

- ・全保護者対象：「心と身体の育ちのアンケート」（53項目：内 情意面の育ち14項目）
- ・年長児保護者対象：「『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』の育ちのアンケート」

子ども施設向けICTシステム 保護者会 保育参観 ふれあい帳

- ・アンケートや園からの発信が、保護者啓発や子育て支援につながっている
- ・子どもの育ちの見方が、「10の姿」を意識したものや情意面の育ち、子どもの成長に目を向けたものに変容している
- ・園の教育や保育への理解や協力体制が深まった



【保護者の感想より】

- ・年長になってから、興味のあることを自分で調べたり、そこで調べた一つの事柄から興味が広がったり、他の知識と結びつけたりすることが増えたように感じます。
- ・園で野菜を育てた経験から、家庭でも大切に育てています。枯れた時は、何が足りなかったのか、育つには何が必要か考えていて、成長が見られます。

今後の課題

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた教育課程について

- ・編成した0歳児から5歳児の教育課程について、ねらいと育ちや学びの連続性の視点から検証し、改善を図る

学びと育ちをつなぐ小学校との連携・接続について

- ・園での学びが小学校の学びへ本当につながっているのかの検証は難しい。アプローチカリキュラムを明確なものにして、幼保小間で子どもの学びの接続性の視点で協議し、円滑な接続が図られるようにしたい。保育を充実させ、それを小学校に啓発することが、「幼保小架け橋プログラム」の実現につながると考える。

教職員の資質向上について

- ・指導計画の改善に留まり、教育課程の改善に個人差が見られた。実践を持ち寄った保育カンファレンスが保育力の向上に有効であったことから、継続する。
- ・特別な支援を要する子どもを含め一人ひとりの子どものウェルビーイングの向上を目指し保育改善に取りみたい。